

豊庄だより



第 673 号 2021 年 8 月 16 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

8月6日と8月9日。ヒロシマとナガサキへ原爆が投下された日です。ヒロシマは8時15分、ナガサキは11時2分。この時刻に合わせて平和記念式典が行われ、テレビでも中継されました。私は、2つともその中継をはじめから最後まで見ました。これまで今回のように見たことはありませんでした。そこには理由がありました。ちょっと長くなりますが、その説明（いきさつ）から書きます。

8月6日のヒロシマ。式典は、松井広島市長による「平和宣言」、こども代表による「平和への誓い」と進みました。テレビの画面には字幕が流れ、その内容を伝えていました。そして、3人目は首相による「あいさつ」でした。あまり期待しないで、ぼんやりと眺めていたのですが、途中、字幕と話していることが合わなくなり、とうとう字幕が消されてしまいました。いったい何が起こったのと思いました。何の説明もなされず中継は終了しました。気に入り、6日の夕方のニュースを見ましたが（同じ放送局）、何も伝えませんでした。判明したのは、次の日の朝刊でした。首相は原稿を読み飛ばしていたのです。その長さはおよそ全体の10分の1。文の途中で切れたため、文脈はつながりませんでした（意味が通らなくなっています）。文脈だけではありません。読み飛ばした文章には、「我が国は、核兵器の非人道性をどの国よりもよく理解する唯一の戦争被爆国」との位置づけや、「核兵器のない世界の実現に向けた努力を着実に積み重ねていくことが重要」などの呼びかけが含まれていました。一番大事な部分です。首相としてはできれば避けたいところなので、意図的にカットした？いや、さすがにそんなことまでは……。また、新聞には、あいさつの冒頭で、式典の名称を、「原発」と読み間違え、「原爆」と言い直す場面もあったことも書かれていました。首相は式典後の記者会見で、「この場をお借りしておわび申し上げる。失礼いたしました」と陳謝しましたが、被爆者の団体からは、「不誠実かつ不勉強。首相の基本的な姿勢が表れたのだと思う」と批判が上がりました。記者会見では話しませんでした。読み間違えの原因は、首相の手元の原稿の一部にのりが付着して、紙を開けなかったと首相周辺からの情報として報道されました。そういうわけで、ナガサキの式典で首相がどんな手元原稿を持ち、読んでいるのかを確認するため中継を注視しました。結果は、何事もなく読み上げましたが、この淡々とした原稿の棒読みは、これまでの記者会見と変わらず、人の心を打つものはありませんでした。



中国殉難者観音

この人の「人を動かす言葉を持たない」話し方といえば、こんな記者会見のやり取りを思い出しました。7月30日の記者会見のことです。7月29日に新型コロナウイルスの新規感染者数が全国で初めて1万人を超えた次の日の記者会見でした。記者から「危機感を共有するために何が必要と考えるか」と問われた首相は、「国民に危機感を持っていただくことがものすごく大事だと考えています」という、わけのわからない答えをしました。記者の向こうには国民がいるということをご存じないようです。

※写真の説明：熊本県荒尾を訪ねた時、小岱山中腹で出会った観音像です。設置された説明版には、太平洋戦争中、強制連行された中国人非戦闘員2481人が三井三池鉱山の坑内重労働で酷使され、わずか1~2年のうちに564人という大量の人が死亡。同鉱山の職員だった深浦隆二氏がこの悲惨な現状を目の当たりにし、この観音像を建立したと書かれていました。制作者は北村西望氏。長崎の平和の像を作った人ですが、同じ人が作ったとは思えないくらい神々しさを感じました。